

令和7年度 ごみ対策調査特別委員会 行政視察実施報告書

1 視察日程

令和7年10月7日（火）～10月9日（木）

2 視察先及び調査事項（詳細は別紙のとおり）

山口県防府市

・防府市クリーンセンターについて

遠賀・中間地域広域行政事務組合

・遠賀・中間リレーセンターについて

3 参加者

委員長	行	元	博
副委員長	高	橋	保
委員	伊	藤	良二
	森	川	亜紀
	佐々木		充
	藤	井	武彦
	高	橋	章哲
	城	戸	力
	佐	伯	利彦
	一	色	輝雄
議長	川	又	由美恵

(別紙)

視察先	山口県防府市（人口１１４，１９２人、面積１８９．３７km ² ）
視察日時	令和７年１０月７日（火） １４時００分～１５時３０分
視察目的 （視察先選定理由）	<p>次期ごみ処理施設の整備に向けた調査・検討に資するため、既存の一般廃棄物処理施設の老朽化に伴い、新たにＰＦＩ事業により整備し、平成２６年４月から運転を開始した「防府市クリーンセンター」を視察。</p> <p>同施設は、選別施設・バイオガス化施設・ごみ焼却施設を組み合わせ、高効率な廃棄物発電を実現する国内初のごみ処理複合施設で、可燃ごみの中からバイオガス化に適した水分の多い厨芥類等のごみを選別、高温乾式メタン発酵処理によりバイオガスを発生させ、発電設備で有効活用している。</p> <p>次期ごみ処理施設を整備するに当たっての参考とするため、今回の視察先を選定した。</p>
調査概要	<p>防府市クリーンセンターについて</p> <p>１ 施設の概要について</p> <p>（１）敷地面積：約４８，３００平方メートル（工業専用地域）</p> <p>（２）可燃ごみ処理施設：SRC造、延べ床面積：７，５３９．６８平方メートル</p> <p>①焼却施設</p> <ul style="list-style-type: none">・焼却設備炉形式：連続燃焼ストーカ式並行流炉施設規模：７５トン／日×２基（年間２８０日換算）焼却温度：８５０度以上（ガス滞留時間２秒以上）・発電設備蒸気タービン発電機：定格出力３，６００キロワット年間発電量：２，４３８万キロワット（約６，０００世帯分の消費電力量） <p>②バイオガス化施設</p> <ul style="list-style-type: none">・発酵設備発酵方式：乾式高温メタン発酵発酵槽規模：５１．５トン／日（可燃ごみ３４．４トン 汚泥１７．１トン）発酵槽容量：１，０００立方メートル×２系列・バイオガス利用方法バイオガス燃焼式熱風発生炉及び独立加熱器により、ボイラ蒸気を４メガパスカル×４１５度に昇温 <p>（３）リサイクル施設</p> <p>処理能力：２３トン／５時間（年間２６０日運転）</p>

	<p>(4) 建設費：１０９億７，４９８万９，０００円</p> <p>①事業費内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P F I 事業費：１０１億４，８４０万３，０００円 ・ 直営事業費：８億２，６５８万６，０００円 <p>②財源内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国庫補助金：４５億２４２万５，０００円 ・ 臨時交付金：１２億８００万円 ・ 地方債：４１億７，８５０万円 ・ 一般財源：１０億８，６０６万４，０００円 <p>2 建設場所の選定方法について</p> <p>旧施設の隣接地に買収可能な民間の事業用地があったため、当該用地を買収し、旧施設を拡張して新施設を建設。</p> <p>周辺に住宅地がなかったことから、特に反対の声はなかった。</p> <p>3 整備スケジュールについて</p> <p>(1) P F I による事業手法の検討</p> <p>防府市行政改革委員会から、民間委託を積極的に検討する旨の答申。</p> <p>運営期間は２０年間、コンバインド式を条件に V F M を算出し、最も V F M 率の高い D B O 方式（１３．９パーセント）を事業手法とすることに決定。</p> <p>※施設稼働後１５年前後が補修工事の集中する時期とされることから、この時期を P F I の事業期間に含めたほうが施設の性能水準の確保、ライフサイクルコストの縮減の観点からメリットが大きいとの判断から、運営事業期間を２０年間と決定。</p> <p>(2) 建設経過</p> <p>平成１８年１１月 防府市ごみ処理基本計画の策定 (廃棄物処理施設の整備方針を決定)</p> <p>平成１９年１２月 地元説明会の開催 整備・運営事業実施方針の公表</p> <p>平成２２年 ３月 公募を経て請負業者を決定し、建設工事請負 仮契約を締結（平成２２年６月議会で承認）</p> <p>平成２３年 ９月 建設工事着工</p> <p>平成２６年 ４月 可燃ごみ処理施設等の試験運転を経て供用 開始</p> <p>4 維持管理・運営に係る経費について</p> <p>(1) 運営事業者：グリーンパーク防府株式会社（S P C）</p> <p>(2) 運営委託料：１０１億円（５億５００万円×２０年）</p> <p>発電設備による発電量が、年間２，４３７万５，４８０キロワットアワー（約６，０００世帯分の年間電力消費量）となっており、これが運営事業者の収入となることから、収入を加味した委託金額</p>
--	---

	<p>となっている。</p> <p>※施設は30年の使用を予定。</p> <p>20年経過後の運営方法は検討課題。</p> <p>5 バイオガス化施設を導入したメリット・デメリットについて</p> <p>国により循環型社会形成推進交付金の充実強化が図られる中、メタン発酵残渣とその他ごみの焼却施設を組み合わせるコンバインド方式とすることにより、交付率が3分の1から2分の1となった。</p>
<p>所感</p> <p>(意見・感想・今後の課題等)</p>	<p>次期ごみ処理施設の整備の検討を進めるに当たり、温室効果ガスの排出抑制等による環境負荷の軽減は重要なファクターであり、防府市クリーンセンターにおける取組は大いに参考となった。</p> <p>加えて、これまで未利用となっている廃熱等についても、有効活用を図るべく検討が必要であると感じた。</p> <p>ごみ収集車等はスロープを上り、3階部分からごみピットに廃棄物を投入する構造とし、ピット床面とGLを合わせることで掘削費等の軽減を図っており、大いに参考となった。</p> <p>次期ごみ処理施設を整備するに当たってこれらのことを検討すべきであると感じた。</p>

その他

視察の様子



視察先	<p>遠賀・中間地域広域行政事務組合 (構成市町：中間市、水巻市、岡垣町、芦屋町、遠賀町) (人口130,381人、面積109.34km²)</p>
視察日時	<p>令和7年10月8日(水) 13時30分～15時00分</p>
視察目的 (視察先選定理由)	<p>本市の道前クリーンセンターは耐用年数の期限が近づいており、将来的な施設更新が必要な時期を迎えている。</p> <p>そのため、本市では新居浜市との共同によるごみ処理施設建設の可能性について検討を進めている。</p> <p>共同建設を行う場合、ごみ処理施設を設置しない市においては、焼却ごみを効率的に運搬するための中継施設の整備が必要となることから、今回の視察先を選定した。</p>
調査概要	<p>遠賀・中間リレーセンターについて</p> <p>1 施設の概要について</p> <p>遠賀郡、中間市の一般家庭から排出される可燃ごみ(不燃・粗大ごみ中の可燃残渣を含む)をごみ収集車及び直接搬入車よりごみコンテナに積み替え、北九州市中間処理施設へ搬送するとともに不燃ごみ・粗大ごみを破碎、選別し有価物の資源回収を行う施設である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・処理能力：中継施設(可燃ごみ)：199トン/日(5時間) 粗大・不燃ごみ資源化施設：24トン/日(5時間) ・中継方式：コンパクタ・コンテナ方式 ・敷地面積：25,725平方メートル(残地森林面積含む) ・建物構造：RC造+S造(一部SRC造)4階建て ・延べ床面積：9,817.71平方メートル <p>2 建設場所の選定方法について</p> <p>当初は、用地取得費等の軽減を図る観点から、現ごみ処理施設である岡垣清掃センターの敷地を新施設の建設予定地とし、地元との協議を重ねていた。</p> <p>しかし、同センターは協定書により平成18年度で施設を閉鎖することとなっていたため、地元の同意を得ることができなかった。</p> <p>このため、新たに3か所の候補地を選定し、比較・検討を行った。</p> <p>その結果、用地取得費の妥当性、北九州市までの搬送効率、人家から離れた立地環境、更に下水道処理施設に隣接しており、工場排水を適正に処理できる利点があることなどを総合的に勘案し、岡垣町糠塚の候補地を最適地として選定した。</p> <p>3 整備スケジュールについて</p> <p>平成13年度： 計画開始(北九州市との廃棄物処理協議よりスタート)</p> <p>平成13～14年度：用地選定(6回の検討会を開催)</p> <p>平成15～17年度：設計・環境影響評価</p>

	<p>平成１７～１９年度：造成・建設工事</p> <p>４ 維持管理・運営に係る経費について 運営費用：１０億７，７４０万１，０００円（令和５年度）</p> <p>５ 不燃ごみ・粗大ごみ処理施設と中継施設の発注方法について 平成１５年度の廃棄物運搬中継・中間処理施設に伴う施設基本計画等作成業務の中で発注仕様書を作成し、平成１７年１０月に指名競争入札を実施。</p> <p>６ 運営方式について 直営（一部委託）</p>
<p>所感 （意見・感想・今後の課題等）</p>	<p>現地を見る中で、実際のごみの搬入から搬出までの流れがとても分かりやすかった。</p> <p>コンパクトからコンテナにごみを移し、アームロール車に積み込むまでの一連の動作が非常にスムーズで、効率的に運用されている印象を受けた。</p> <p>可燃ごみを１回当たり６．５トン積載し、複数台で３往復ほどしているとのことで、もし本市で同様の中継施設を導入した場合のイメージを具体的に持つことができた。</p> <p>一方で、やはり課題も多いと感じた。まず、立地の検討や地域との合意形成はもちろんだが、それだけでなく、どのように収集体制を組むのか、同じような規模・方式の施設が最適なのか、そして本市と新居浜市のどちらにごみ処理施設を設置するのかといった基本的な方針についても、しっかりと議論を重ねていく必要があると感じた。</p> <p>今後の施設整備を考えるに当たっては、こうした現場の実際を踏まえながら、運搬効率やコスト面だけでなく、地域住民の理解と納得を得られる形で進めていくことが大切だと改めて感じた。</p>

その他

視察の様子

